

諏訪の景気動向

平成20年11月

(平成20年10月末 D・I調査)

平成20年11月20日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成20年10月末）

「平成20年10月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方201社のご協力を得て行った10月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の業況判断D I は $\Delta 47.3$ と前回調査時の $\Delta 8.0$ から39.3ポイントの大幅な悪化となった。

今回調査の業況判断D I $\Delta 47.3$ は、米国同時多発テロやIT不況から景況が悪化した平成14年1月調査の $\Delta 44.5$ を更新し、当金庫が本D I 調査を開始した平成10年1月以来の最低値となった。

また、回答全社の「3ヵ月後」の予想では64.7%の企業が「悪化」を予想しており、業況予想D I は前回調査時の $\Delta 14.2$ から49.0ポイント悪化し $\Delta 63.2$ となり、同D I も平成13年10月調査の $\Delta 40.4$ を大幅に下回る結果となった。

9月の米国リーマン・ブラザーズの破綻から、世界と日本国内の景気は急激な減速となり、諏訪地域の景況も主力の製造業で大幅に悪化しており、今後の商業や観光サービス業への波及が懸念される。

製造業の「3ヶ月前」と比べた業況判断は「好転」6.5%、「悪化」58.4%で、業況判断D I は $\Delta 51.9$ と前回調査時の $\Delta 14.1$ から37.8ポイントの大幅な悪化となった。

受注状況D I は「3ヶ月前比」 $\Delta 57.8$ 、「前年同月比」 $\Delta 65.6$ となっており、足元の受注は大幅に減少している。「3ヵ月後」の予想では「不変」とみる企業が25.3%みられるものの、「減少」とみる企業が72.7%で受注予想D I は $\Delta 70.8$ と厳しい受注環境を予想している。

規模別の業況判断D I は「1人～29人企業」 $\Delta 50.7$ 、「30人～99人企業」 $\Delta 58.0$ 、「100人以上企業」 $\Delta 45.2$ と全ての規模で前回調査時よりマイナス幅が拡大しており、なかでも「100人以上企業」は前回調査時の同D I 6.5から51.7ポイント悪化しマイナスに転じた。

業種別の業況判断D I では、精密機械が $\Delta 6.3$ と小幅なマイナスである以外は、輸送用機械の $\Delta 62.5$ を筆頭に金属製品・一般機械・電気機械ともに大きなマイナスとなっている。

「3ヵ月後」の受注予想では、製造業全体で同D I $\Delta 70.8$ となっており、なかでも「100人以上企業」の同D I は $\Delta 77.4$ と最も厳しい見方をしている。業種別の受注予想では、金属製品の同D I が $\Delta 80.0$ となるなど、金属製品・一般機械・電気機械・輸送用機械の調査先110社で「増加」を見込む企業は1社もないなど、今後の受注不足を危惧する声が強くなっている。

ヒアリング調査では、世界的な株安・円高・景気後退に伴う需要減等による景気の悪化は覚悟していたものの、秋口より大手企業の減産や設備投資の抑制などが本格化してきたことから大幅な受注の減少や機械設備のキャンセルが始まっており、北米等のクリスマス商戦への期待薄やその結果を受けた来年の受注動向が予測できないとするなど不透明感が強くなっている。

商業は、「3ヶ月前」と比べた業況判断は50.0%の企業で「悪化」として同D I $\Delta 41.7$ 、客単価では41.7%の企業が「悪化」として同D I は $\Delta 41.7$ となっている。

食料品は、一人当たりの買上点数が落ちており客単価の低下がきかれ、衣料品では子供用の防寒衣料や実用衣料の動きは平年並みであるものの、高級衣料品の落ち込みから売上は前年を割り込んでいくところが多くきかれる。また、家電店では堅調であったデジタル家電品の動きが幾分弱含み始めた。

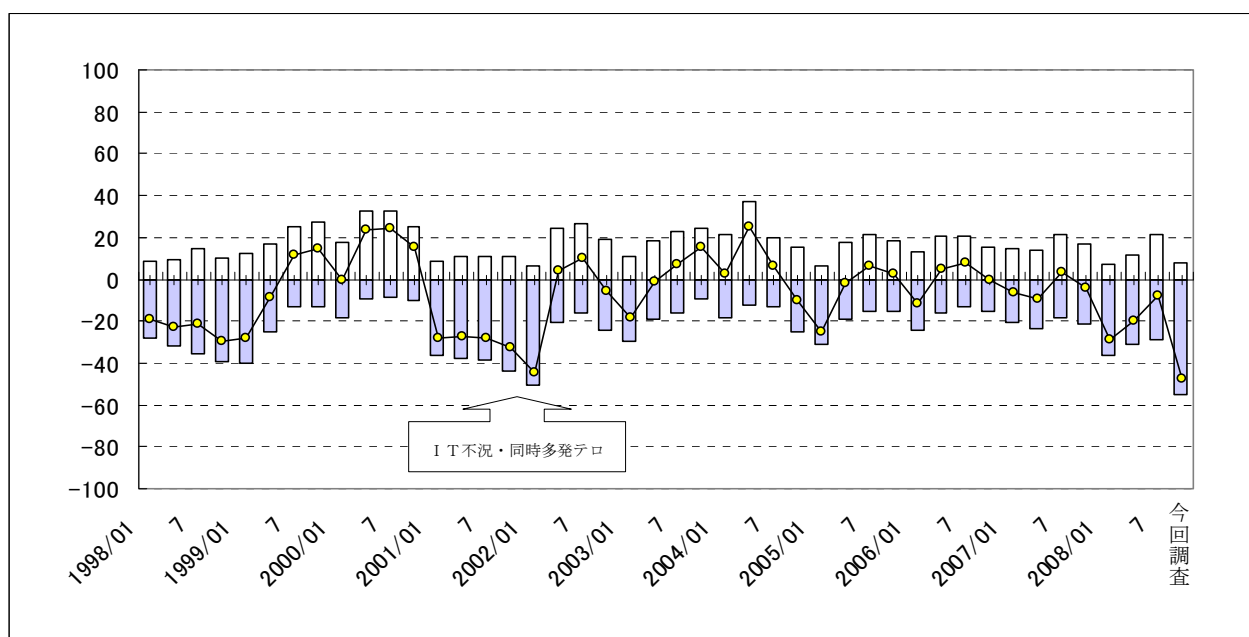
観光・サービス業は、秋の観光シーズンを迎え、天候にも恵まれたことから各観光地は入込み客で賑わったものの、NHK大河ドラマ「風林火山」の効果があつた前年同期比の業況判断D Iでは「悪化」とする施設が 62.5%を占め、同D Iは $\Delta 54.2$ と前回調査からマイナス幅が拡大している。また、冬のシーズンとなる「3 ヶ月後」の宿泊客数の予想では 12.5%の施設で「好転」を見込んでいるものの、79.2%の施設で「悪化」するとしており同D Iは $\Delta 66.7$ と冬場の集客が課題となっている。

また、忘年会や新年会の予約の出足が遅く、特に法人需要の低下を危惧する声がかかる。

建設業は、「3 ヶ月前」と比べた業況判断は「横這」とする企業が 81.8%を占め、前回調査時の業況判断D I $\Delta 11.8$ から 0.0 へ回復したものの低調なまま推移している。また、受注状況は「横這」とする企業が 63.6%であるものの、外注発注量は「減少」したとする企業が 45.5%あり同D Iは $\Delta 27.3$ となっている。また、受注単価の競争が激しく収益性が厳しいなかで、製造業の業況悪化を受け今後の受注動向や収益確保を危惧する声がかかる。建築工事は、諏訪地方の平成 20 年 9 月の新設住宅着工件数は 152 戸で、改正建築基準法の影響のあつた昨年同月の 125 戸から+27 戸 (21.6%) 増加した。また、平成 20 年 4 月～平成 20 年 9 月の累計着工戸数は 855 戸で前年同期の 834 戸に比べ+21 戸 (2.5%) 増加した。土木工事は、県関係の平成 20 年 4 月～10 月の公共工事 (地元業者受注分) は 127 件 3,055 百万円で、前年同期累計の 130 件 5,312 百万円に比べ、 $\Delta 3$ 件・ $\Delta 2,257$ 百万円と大幅に減少している。

雇用状況は、9 月の諏訪地域の有効求人倍率は、1.21 倍 (前年同月比 $\Delta 0.28$ ポイント) と昨年 10 月より 12 ヶ月連続して前年同月比を下回っているものの、全国 (0.84 倍) 及び長野県 (0.95 倍) を上回っている。なお、製造業において受注量の減少に伴う派遣社員の契約解除や正社員の配置換え、完全休業日の設定などのリストラ策を実施する企業もかかる。

回答全社 業況判断D Iの推移 (当庫での調査開始時より)



業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（201社）の「3ヶ月前比」の業況は、「好転」とする企業が7.5%、「悪化」とする企業が54.7%で業況判断DIは△47.3と大幅なマイナスとなっている。

製造業の業況判断DIは△51.9で前回調査時（△14.1）から大幅に悪化した。また、製造業主要5業種の業況判断DIは、精密機械は「横這」とする企業が68.8%あり業況判断DIは△6.3と小幅なマイナスであるものの、金属製品・一般機械・電気機械・輸送用機械では「悪化」とする企業が60%以上を占めることから業況判断DIは4業種ともに△60近辺に落ち込んでいる。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは△31.9で、前回調査時の8.8から40.7ポイント悪化しマイナスに転じた。商業では消費マインドの低迷がきかれ、観光は好調だった前年同期に比べ「悪化」とする企業が62.5%となっている。

産業別業況表

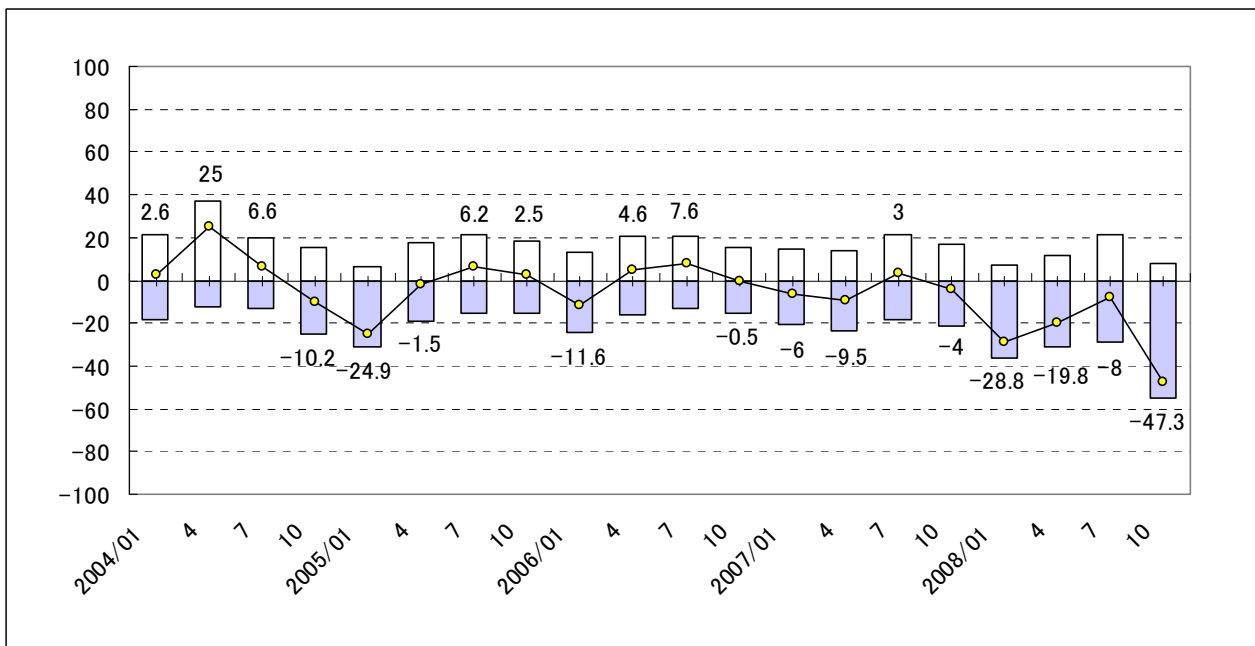
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	201	7.5	37.8	54.7	-47.3	201	9	22.9	68.2	-59.2	201	1.5	33.8	64.7	-63.2
製造業	154	6.5	35.1	58.4	-51.9	154	8.4	20.1	71.4	-63	154	0.6	31.2	68.2	-67.5
非製造業	47	10.6	46.8	42.6	-31.9	47	10.6	31.9	57.4	-46.8	47	4.3	42.6	53.2	-48.9
商業(大型店)	12	8.3	41.7	50	-41.7	12	16.7	25	58.3	-41.7	12	0	66.7	33.3	-33.3
建設業	11	9.1	81.8	9.1	0	11	9.1	45.5	45.5	-36.4	11	9.1	54.5	36.4	-27.3
観光・サービス	24	12.5	33.3	54.2	-41.7	24	8.3	29.2	62.5	-54.2	24	4.2	25	70.8	-66.7

自社業況判断DIの推移

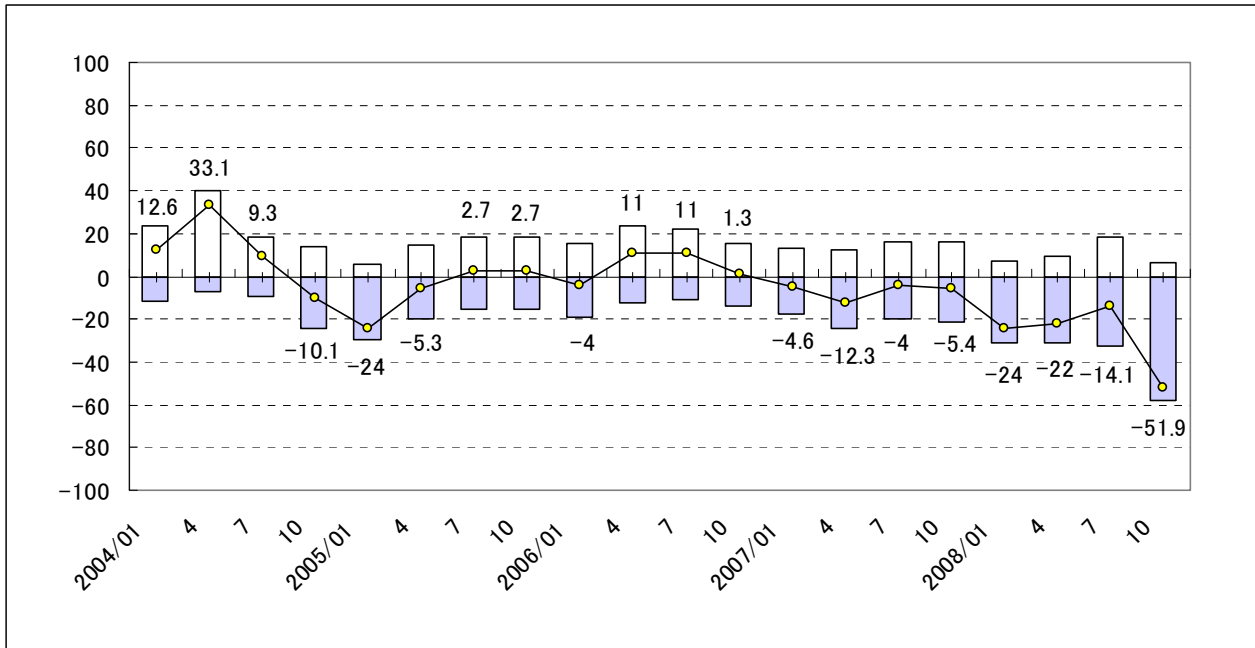
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



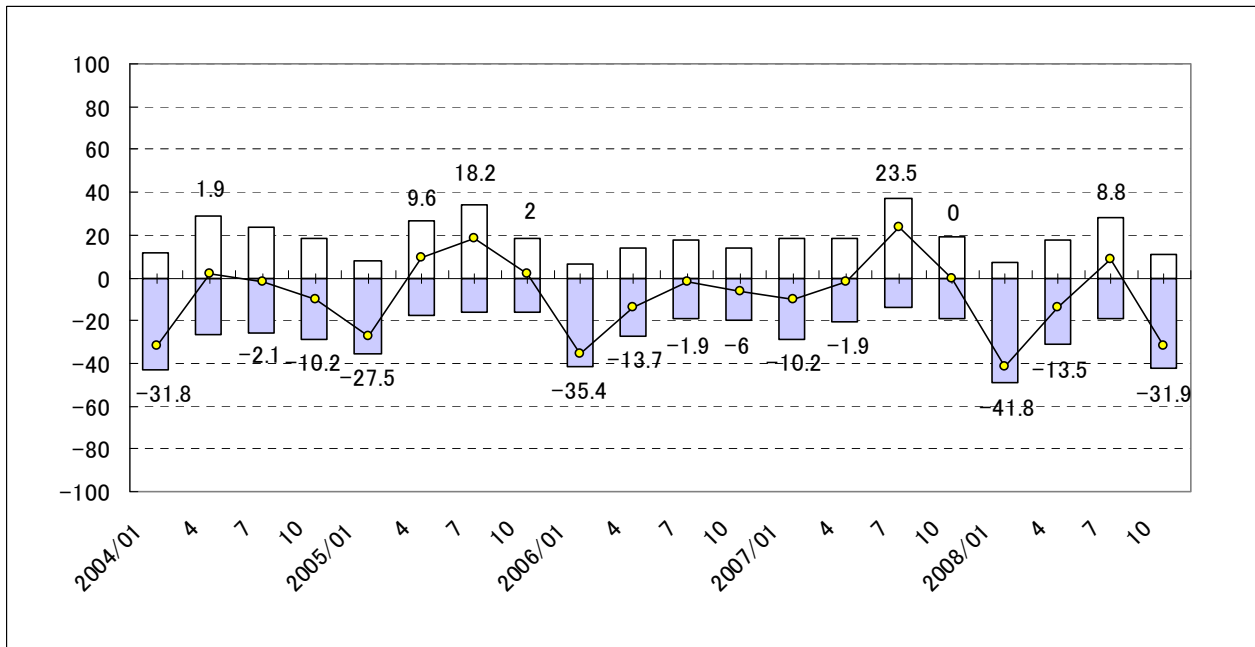
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業全体（154社）の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、前回調査時の△14.1から37.8ポイント悪化し△51.9となった。また、「前年同期比」では71.4%の企業が「悪化」したとして、同D Iは△63.0と大きくマイナスになっている。

「3ヶ月前」と比べた収益性は、「悪化」とする企業が55.8%に達することから同D Iは△52.6と前回調査時の△24.4から28.2ポイント悪化した。原油や原材料価格に値下がりがみられるものの、売上高の減少から収益環境は厳しくなっている。また、「3ヵ月後」の収益予想D Iは「悪化」を予想する企業が64.7%を占め△64.1となっている。

受注状況の「3ヶ月後」の予想は、製造業全体で同D I △70.8となっており、なかでも「100人以上企業」の同D Iは△77.4と最も厳しい見方をしている。業種別では、金属製品の同D Iが△80.0となるなど、金属製品・一般機械・電気機械・輸送用機械の調査先110社で「増加」を見込む企業は1社もないなど、今後の受注不足を危惧する声が強くなっている。

ヒアリング調査では、世界的な株安・円高・景気後退に伴う需要減等による景気の悪化は覚悟していたものの、秋口より大手企業の減産や設備投資の抑制などが本格化してきたことから大幅な受注の減少や機械設備のキャンセルが始まっており、北米等のクリスマス商戦への期待薄やその結果を受けた来年の受注動向が予測できないとするなど不透明感が強くなっている。

また、受注量の減少に伴う派遣社員の契約解除や正社員の配置換え、完全休業日の設定などのリストラ策を実施する企業もきかれる。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	154	6.5	35.1	58.4	-51.9	154	8.4	20.1	71.4	-63	154	0.6	31.2	68.2	-67.5	
規模	1～29人	73	8.2	32.9	58.9	-50.7	73	9.6	17.8	72.6	-63	73	1.4	35.6	63	-61.6
	30～99人	50	4	34	62	-58	50	4	22	74	-70	50	0	28	72	-72
	100～人	31	6.5	41.9	51.6	-45.2	31	12.9	22.6	64.5	-51.6	31	0	25.8	74.2	-74.2
分類	金属製品製造業	20	0	35	65	-65	20	5	20	75	-70	20	0	25	75	-75
	一般機械器具製造業	40	5	32.5	62.5	-57.5	40	10	15	75	-65	40	0	30	70	-70
	電気機械器具製造業	34	2.9	32.4	64.7	-61.8	34	5.9	20.6	73.5	-67.6	34	0	26.5	73.5	-73.5
	輸送用機械器具製造業	16	6.3	25	68.8	-62.5	16	6.3	18.8	75	-68.8	16	0	31.3	68.8	-68.8
	精密機械器具製造業	16	12.5	68.8	18.8	-6.3	16	12.5	37.5	50	-37.5	16	6.3	43.8	50	-43.8

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 65.0$ と前回調査時の $\Delta 28.6$ から36.4ポイント悪化した。また、業況予想D Iでは「悪化」とする企業が75.0%に達し、同D Iは $\Delta 75.0$ と前回調査時の0.0から一気に悪化し、5業種のなかで最も厳しい数値となっている。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 57.5$ と前回調査時の $\Delta 22.0$ から35.5ポイント悪化した。また、業況予想D Iも $\Delta 70.0$ でさらなる「悪化」を予想している。自動車産業からだけでなく、各種業界から設備発注のキャンセルが多くきかれる。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 61.8$ と前回調査時の $\Delta 12.1$ から49.7ポイント悪化した。これまで好調を維持してきたデジタルカメラ関連も受注は減少しており、北米等のクリスマス商戦への期待薄やその結果を受け来年にはさらに悪化するとの見方が多いなど、業況予想D Iは $\Delta 73.5$ と不透明感が強くなっている。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

前回調査時は「好転」企業18.8%、「悪化」企業25.0%で業況判断D Iは $\Delta 6.3$ であったが、今回の調査では「悪化」した企業が68.8%へ達したことから、同D Iは56.2ポイント悪化し $\Delta 62.5$ となった。自動車メーカーの減産の影響から、前年同期比で20~30%の受注減となっている企業が多く、さらなる受注の減少や当面の受注回復への期待薄から先行きへの不安感がきかれる。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは68.8%の企業が「横這」、12.5%の企業が「好転」としていることから、同D Iは $\Delta 6.3$ と他の業種に比べてマイナス幅は小さくなっている。ただし、前回調査時に6.7とプラスであった業況予想D Iは、今回調査では $\Delta 43.8$ とマイナスに転じている。

②小分類、他の製造業

プレス加工の「3ヶ月前」と比べた業況判断は60.0%の企業が「悪化」としており同D I $\Delta 60.0$ 、電気メッキでは83.3%の企業が「悪化」としており同D I $\Delta 83.3$ となっている。

③規模別業況

製造業の規模別の業況判断D Iは「1人~29人企業」 $\Delta 50.7$ 、「30人~99人企業」 $\Delta 58.0$ 、「100人以上企業」 $\Delta 45.2$ と全ての規模でマイナス幅が拡大している。なかでも、「100人以上企業」は前回調査時の同D I 6.5から51.7ポイント悪化している。

「3ヶ月後」の業況予想では、「100人以上企業」の74.2%が「悪化」としており、「好転」とする企業がないことから同DIは△74.2で、業況予想は規模が大きくなるほど厳しい予想をしている。

④受注状況DI（規模別、業種別）

製造業全社の受注状況DIは「3ヶ月前比」△57.8、「前年同月比」△65.6となっており、足元の受注は大幅に減少している。「3ヶ月後」の予想では「不変」とみる企業が25.3%みられるものの、「減少」とみる企業が72.7%で受注予想DIは△70.8と厳しい受注環境を予想している。

規模別の受注状況DIは、「30人～99人企業」の「3ヶ月前比」同DIは△66.0、「前年同期比」同DIは△76.0で他の規模より受注が減少している。また、「3ヶ月後」の予想では「100人以上企業」では「増加」を見込む企業はなく、「減少」とする企業が77.4%を占めており同DIは△77.4と最も厳しい受注環境を予想している。

業種別では、「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは精密機械で「不変」とする企業が62.5%あるものの、他の4業種では「減少」とする企業が最も多く70%程度を占めている。また、「3ヵ月後」の受注予想DIは金属製品が△80.0と受注不足を懸念する声がきかれる。

業種別・規模別受注状況表

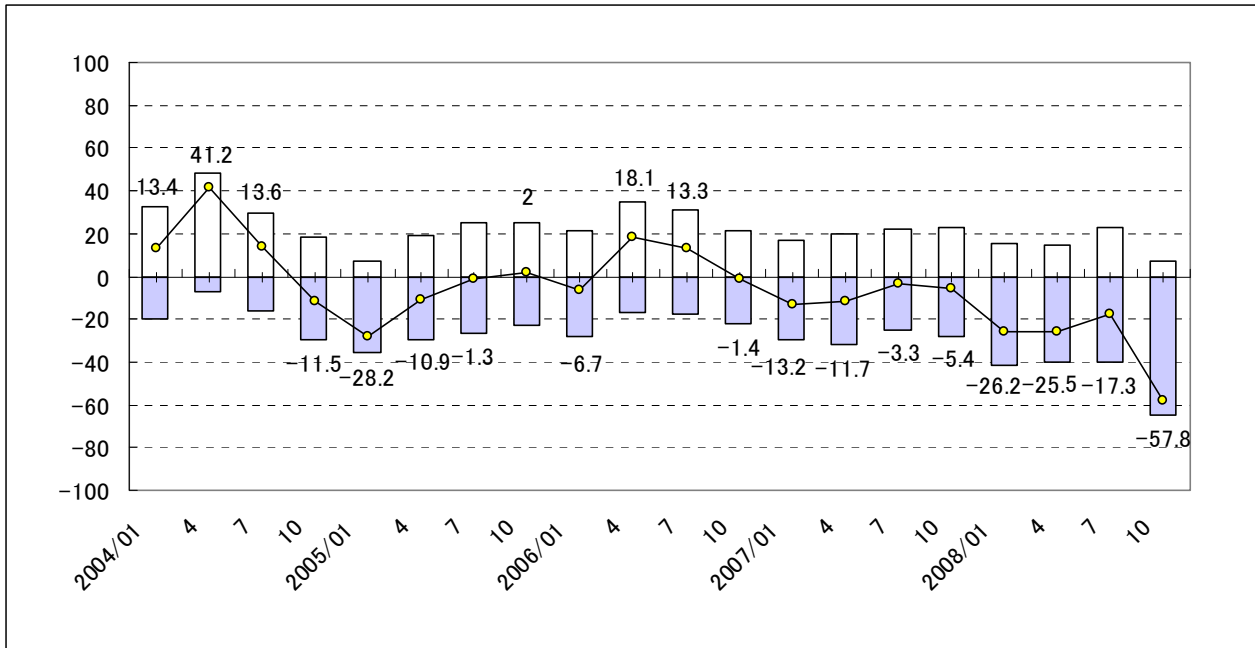
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	154	7.1	27.9	64.9	-57.8	154	9.7	14.9	75.3	-65.6	154	1.9	25.3	72.7	-70.8	
規模	1～29人	73	8.2	27.4	64.4	-56.2	73	11	13.7	75.3	-64.4	73	1.4	27.4	71.2	-69.9
	30～99人	50	4	26	70	-66	50	2	20	78	-76	50	4	24	72	-68
	100～人	31	9.7	32.3	58.1	-48.4	31	19.4	9.7	71	-51.6	31	0	22.6	77.4	-77.4
中分類	金属製品製造業	20	5	25	70	-65	20	10	10	80	-70	20	0	20	80	-80
	一般機械器具製造業	40	2.5	22.5	75	-72.5	40	7.5	10	82.5	-75	40	0	27.5	72.5	-72.5
	電気機械器具製造業	34	8.8	23.5	67.6	-58.8	34	11.8	14.7	73.5	-61.8	34	0	26.5	73.5	-73.5
	輸送用機械器具製造業	16	6.3	18.8	75	-68.8	16	12.5	12.5	75	-62.5	16	0	25	75	-75
	精密機械器具製造業	16	6.3	62.5	31.3	-25	16	12.5	25	62.5	-50	16	6.3	31.3	62.5	-56.3

製造業の受注状況D I の推移

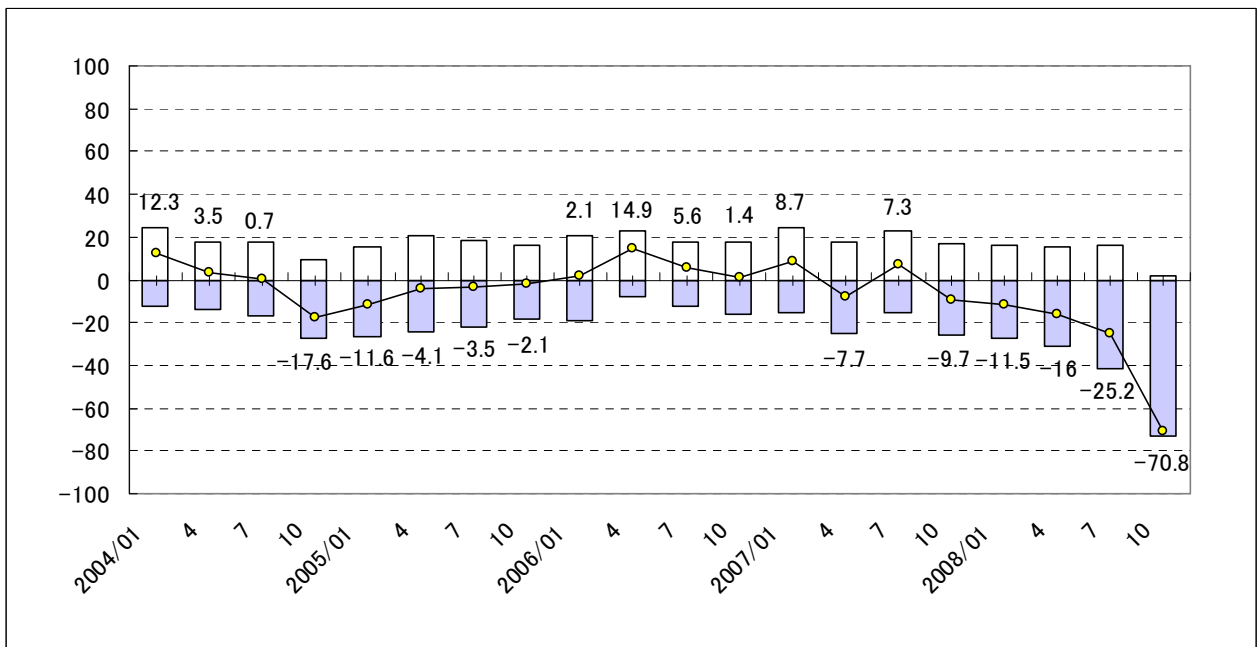
● 全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフー4



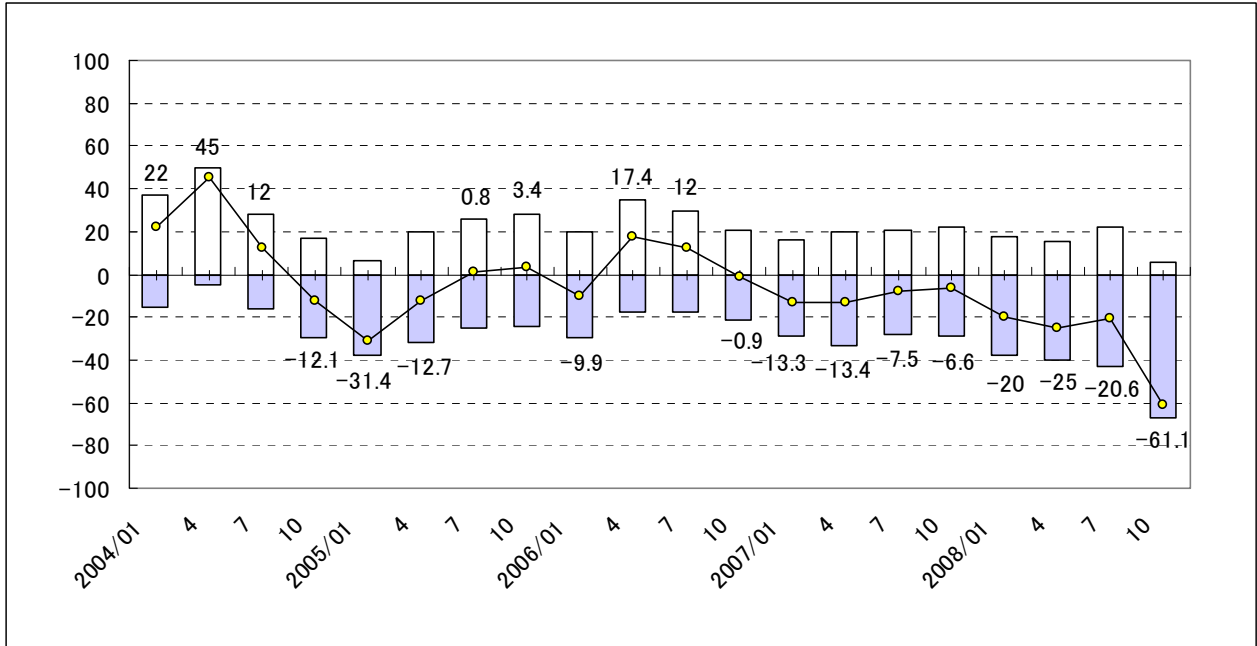
● 全社：「3ヶ月後」の予想

グラフー5



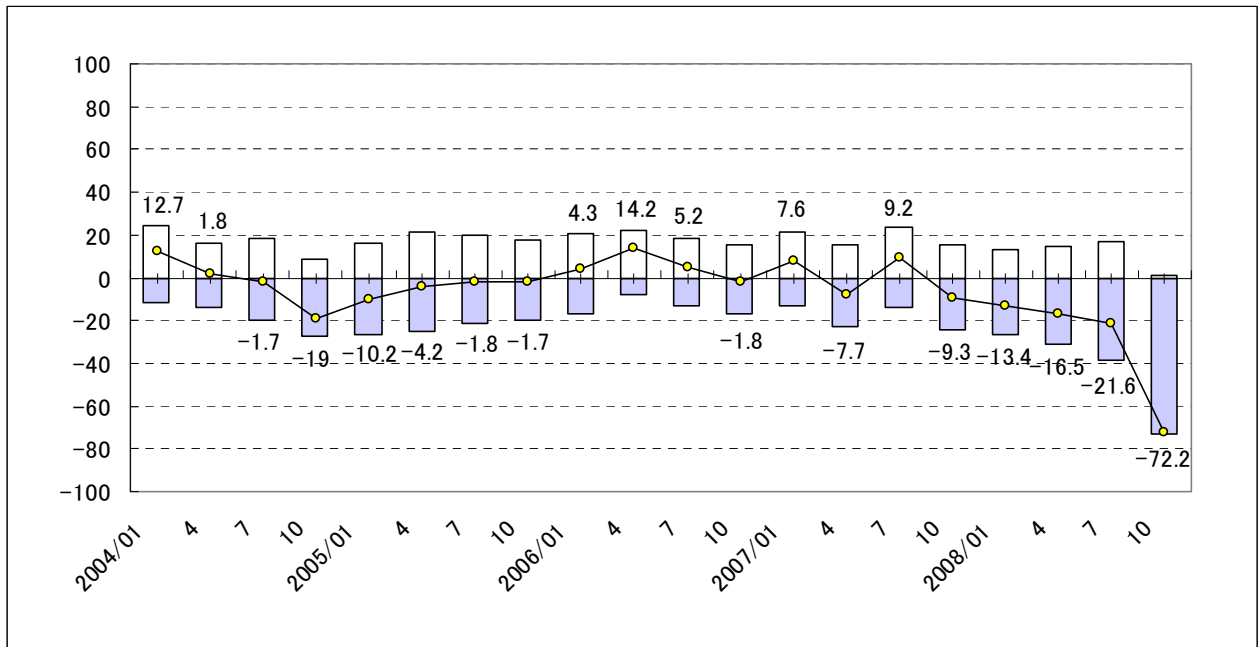
●主要5業種：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-6



●主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフ-7



2. 商業・観光サービス業

①商業

諏訪地方の10月の天候は、下旬に寒気の南下に伴い気温が下がったものの月平均では暖かく、また台風の影響がなかったことから降水量も少なかった。「3ヶ月前」と比べた業況判断は50.0%の企業で「悪化」として同D I Δ 41.7、客単価では41.7%の企業が「悪化」として同D Iは Δ 41.7となっている。ヒアリング調査では、ガソリン価格は値下がり傾向であるものの消費マインドは低迷しており、商品選択の目が厳しくなるなど慎重な消費動向がきかれる。また、地域の景況感の悪化からクリスマスや年末商戦の弱含みを危惧する声がかかれる。

- 食料品 1人当たりの買上点数が落ちており、客単価も低下している店舗が多い。大手スーパーでは、NB商品よりも格安なPB商品の売れ行きが好調である。
- 衣料品 子供用の防寒衣料や実用衣料の動きは平年並みであるが、高級衣料品の落ち込みから売上は前年を割り込んでいるところが多い。
- ホームセンター 生活関連商品や漬物用品等の季節商材の動きは堅調である。
- 大型家電店 堅調であったデジタル家電品の動きは幾分鈍くなってきている。

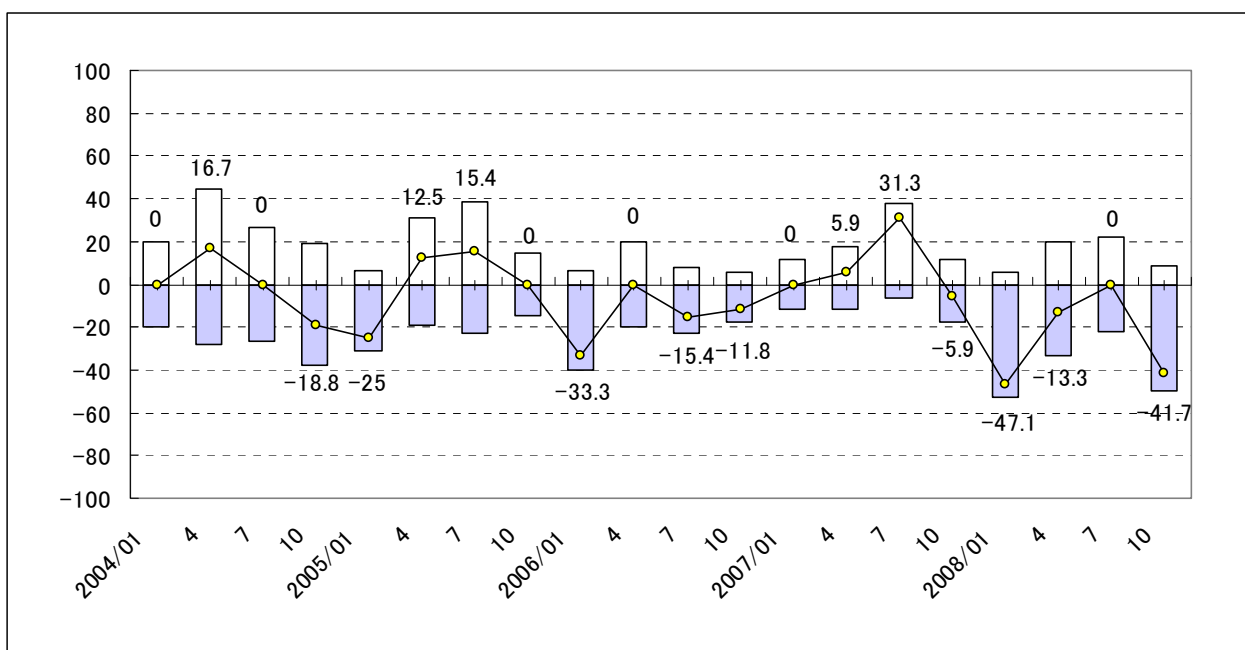
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	12	8.3	41.7	50	-41.7	12	16.7	25	58.3	-41.7	12	0	66.7	33.3	-33.3
客単価	12	0	58.3	41.7	-41.7	12	0	66.7	33.3	-33.3	12	0	75	25	-25
来店客数	12	0	58.3	41.7	-41.7	11	0	36.4	63.6	-63.6	12	0	58.3	41.7	-41.7

●商業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



②観光・サービス業

秋の観光シーズンを迎え、天候にも恵まれたことから各観光地は入込み客で賑わったものの、NHK大河ドラマ「風林火山」の効果があつた前年同期比の業況判断DIでは「悪化」とする施設が62.5%を占め、同DIは△54.2とマイナス幅が拡大している。また、冬のシーズンとなる「3ヵ月後」の宿泊客数の予想では12.5%の施設で「好転」を見込んでいるものの、79.2%の施設で「悪化」としており同DIは△66.7と冬場の集客が課題となっている。

諏訪大社（上社・下社）の10月の参拝客数は50千人で、前年同月比△18千人の減少となるなど地域全体では団体客が減少している。上諏訪温泉の宿泊客数は、ホテル旅館により区々であるものの総体では前年同月比10%程度減少している模様である。白樺湖・蓼科・霧ヶ峰方面は、紅葉のシーズン迎え、天候に恵まれたことや宿泊料金の値下げ、インバウンド客の取り込みなどから前年並みを維持している。

忘新年会の予約の出足が遅く、特に法人需要の低下を危惧する声がかかる。

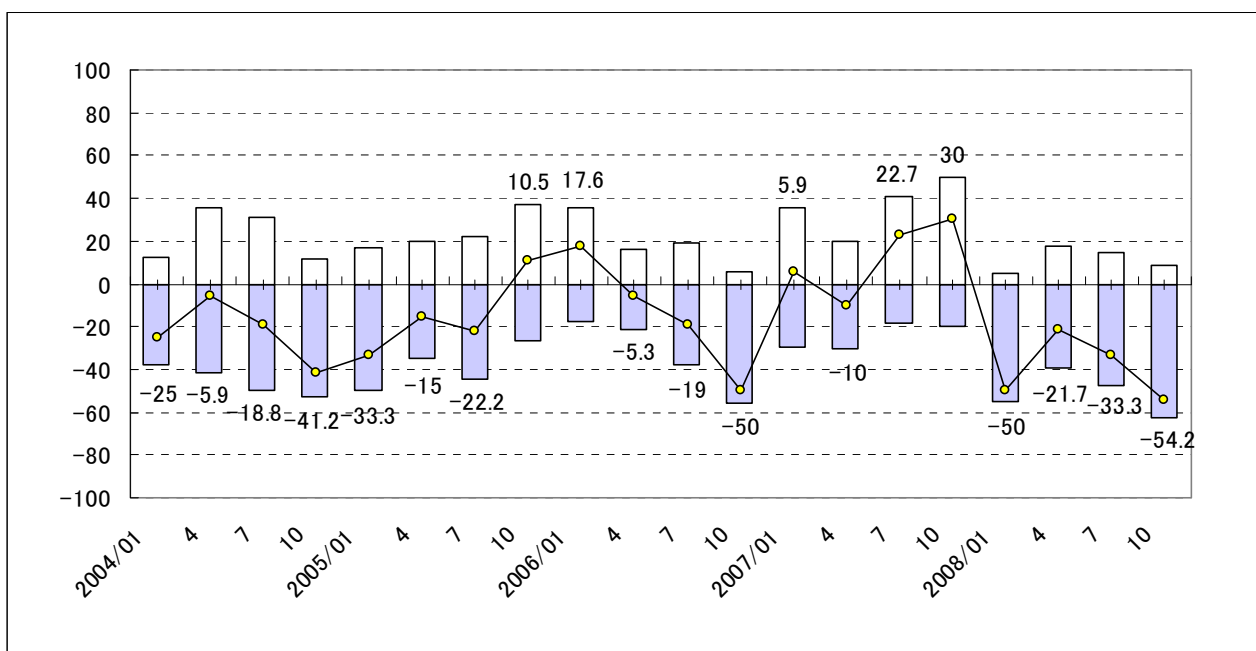
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	24	12.5	33.3	54.2	-41.7	24	8.3	29.2	62.5	-54.2	24	4.2	25	70.8	-66.7
客単価	24	4.2	54.2	41.7	-37.5	24	16.7	33.3	50	-33.3	24	4.2	33.3	62.5	-58.3
宿泊客数	24	16.7	25	58.3	-41.7	24	8.3	29.2	62.5	-54.2	24	12.5	8.3	79.2	-66.7

●観光・サービス業全社の業況判断DIの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「横這」とする企業が81.8%を占め、前回調査時の△11.8から0.0へ回復したものの低調なまま推移している。また、「3ヶ月前」と比べた受注状況は「横這」とする企業が63.6%あるものの、外注発注量は「減少」したとする企業が45.5%あり同D Iは△27.3となっている。また、受注単価の競合が激しく収益性が厳しいなかで、製造業の業況の悪化を受け今後の受注動向や収益確保を危惧する声がかかる。

①建築工事

諏訪地方の平成20年9月の新設住宅着工件数は152戸で、改正建築基準法の影響のあった昨年同月の125戸から+27戸(21.6%)増加した。また、平成20年4月～平成20年9月の累計着工戸数は855戸で前年同期の834戸に比べ+21戸(2.5%)増加した。

②土木工事

県関係の平成20年4月～10月の公共工事(地元業者受注分)は127件3,055百万円で、前年同期累計の130件5,312百万円に比べ、△3件・△2,257百万円と大幅に減少している。

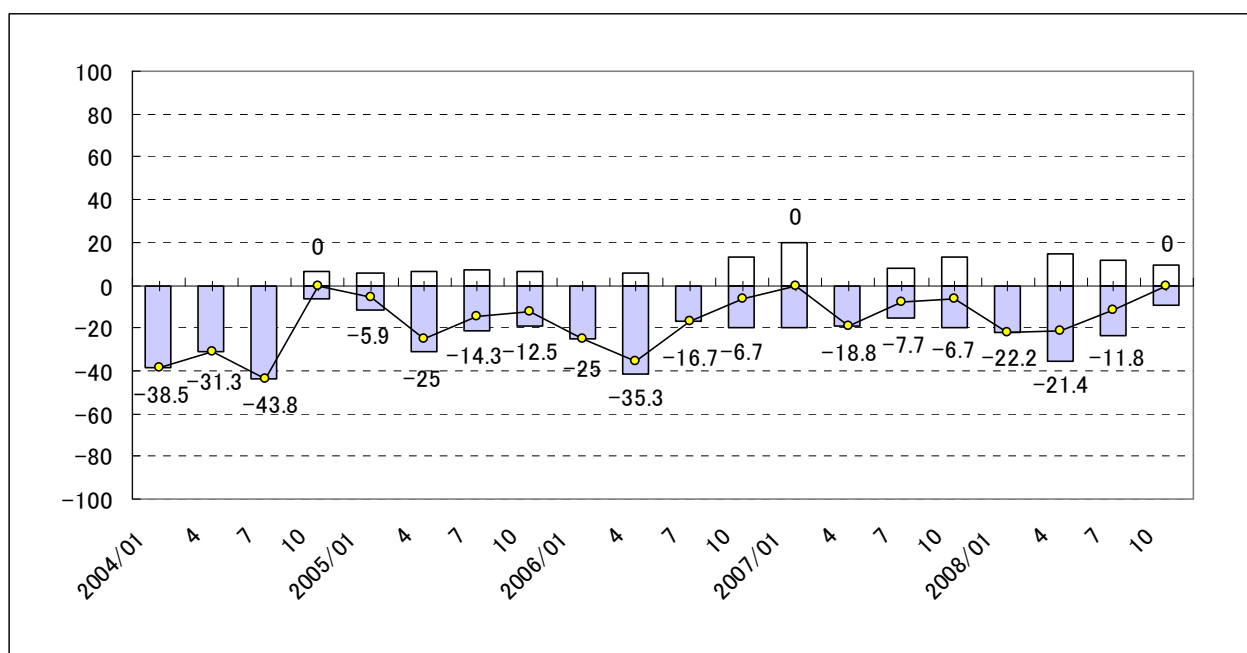
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	11	9.1	81.8	9.1	0	11	9.1	45.5	45.5	-36.4	11	9.1	54.5	36.4	-27.3
受注状況	11	9.1	63.6	27.3	-18.2	11	27.3	18.2	54.5	-27.3	11	0	45.5	54.5	-54.5
外注発注量	11	18.2	36.4	45.5	-27.3	11	18.2	27.3	54.5	-36.4	11	9.1	36.4	54.5	-45.5

●建設業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



4. 収益性状況

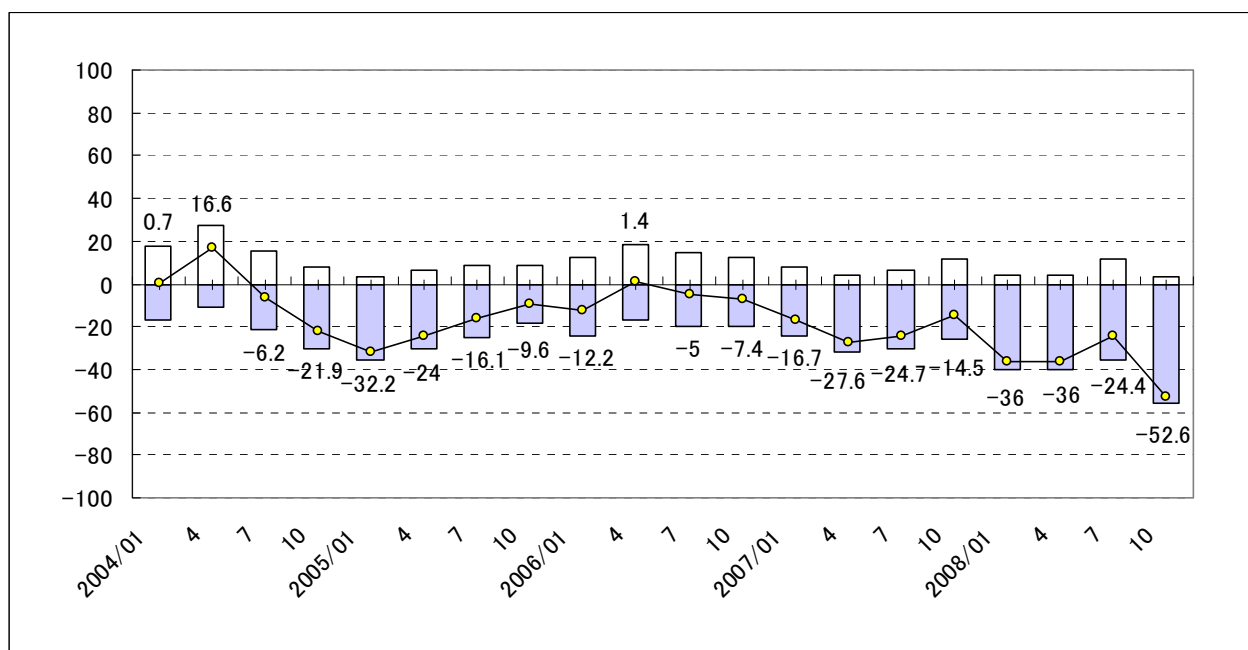
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは、「好転企業」4.5%、「横這企業」41.3%、「悪化企業」54.2%で同D Iは△49.8と前回調査時の△20.7から29.1ポイント悪化した。

製造業は、「3ヶ月前」と比べ収益性が「悪化」した企業が55.8%で同D Iは△52.6、「前年同期」と比べ収益性が「悪化」した企業は66.7%で同D Iは△62.1となっている。原材料価格は幾分値下がり傾向であるものの、それ以上に売上が減少していることから収益性の低下がみられる。

非製造業の収益性D Iは、観光業での宿泊単価の低下や商業での買上点数の減少などから、前回調査時の△10.5より29.9ポイント低下し△40.4となった。

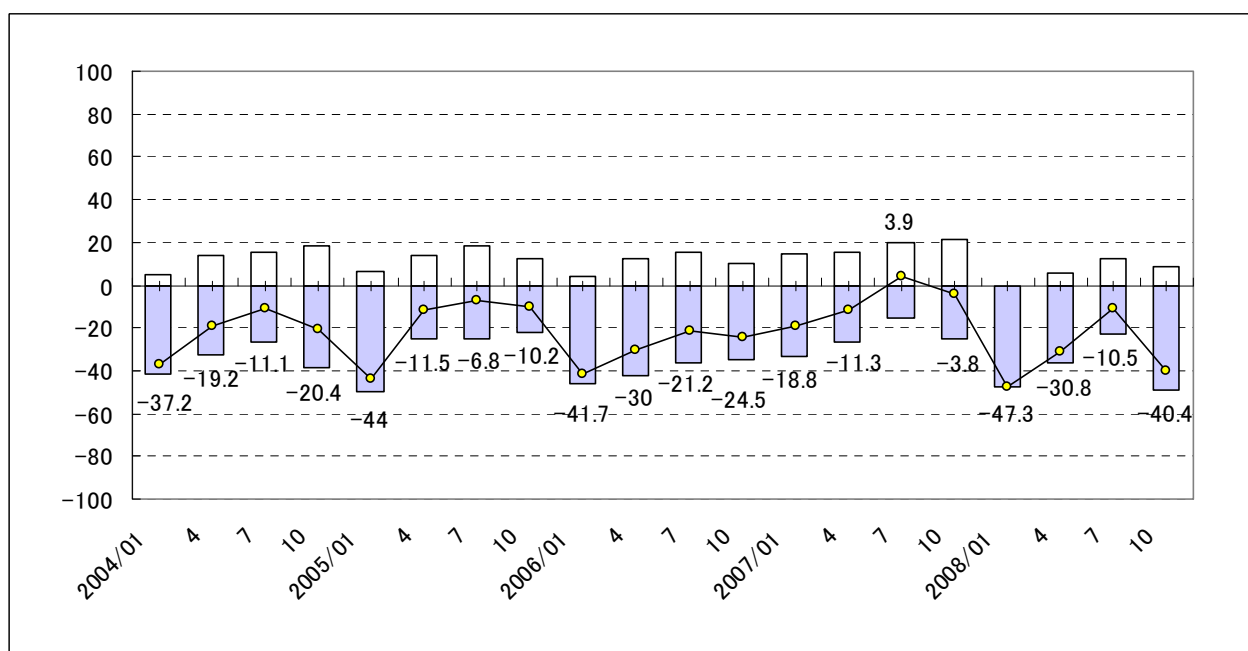
●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー12



5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、単価引下げ、資金繰りをあげる企業が多く、②商業は売上減少、競争激化、人件費、③建設業は競争激化、売上減少、単価引下げ、④観光・サービス業は売上減少、資金繰り、人件費をあげている。また、製造業では自由回答欄に円高の影響をあげる企業が多く、また、全業種を通して労働力確保をあげる企業は少なくなっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	162	124	10	9	19
単価引下げ	59	44	3	6	6
競争激化	60	40	7	10	3
資金繰り	56	42	2	1	11
人件費	34	18	4	1	11
労働力確保	12	4	1	0	7

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【9月】	諏訪公共職業安定所管内	1.21倍	△0.28ポイント
手形交換高【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	10,336枚	△3,425枚
	金額	16,903百万円	△3,221百万円
うち不渡り 発生状況	枚数	2枚	△11枚
	金額	878千円	△22,891千円
電力使用量【10月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯	37,501 MWh	+7.2%
	電力	7,743 MWh	△0.3%
車庫証明取扱件数【10月】(諏訪地方合計)		1,079件	△10.5%
新設住宅着工件数【H20.4～9】(諏訪管内)		855件	2.5%

7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- 調査期間 平成20年10月末
- 調査内容 「平成20年10月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査及びヒアリング調査
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業（大型店：売り場面積501㎡以上）、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 201企業
- 回答率 67.0%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	225	23	22	30	300
回答数	154	12	11	24	201